
3 c mの我儘

逆梳 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3cmの我儘

【Nコード】

N2861D

【作者名】

逆梳 零

【あらすじ】

逆梳零が記す、何処にでもある恋愛の筈なのに、何故か心が暖くなる。そんな物語です。

恋なんて、しなければ良かった。そう思い始めたのは、あいつと出会ってからだった。

中学2年の夏。

私は、いつものようにその階段を上っていた。嫌に角度のきつい階段。それは、私が小学校4年から中学まで通っていた塾の階段だった。

少し臭うけれど、涼しいクーラー。教室に入って鞆を置く。今日は社会だけだからそんなに荷物は多くない。夏期講習1日目の今日は、黒板に張られた席順を見て自分の名前を捜し、決められた席に座って読書始める。

私は、所謂苛められっ子体質だった。

特に仲の良い友達もいないし、だからといって誰かと仲良くしようとも思わない。いつも一人でいる読書が好きな文芸部員、周りからすれば変な人の類だった。

おしゃれや最近のドラマにも興味が無い。どちらかと言えば、読書や漫画が好きな私は、中学時代同族に恵まれず一人で過ごしていた。別にそれを苦痛とも思わなかったし、むしろ時折顔だけ心配そうにして声をかけてくる教師や、嫌々ながら話しかけて来るクラスメイトが正直うざったくて嫌だった。

もちろん、そんな私に複雑に思える恋愛が待っていようとは、思ってもいなかった。

かたん、

まだ授業の始まっていない、賑やかな教室のはずだった。しかしその、椅子の足と床が擦れる独特の音に、私はぴくりと肩を動かした。気付くと隣の机には、黒いスポーツバッグが置かれている。どうやらこの夏を延々と、この隣人と過ごすことになるらしい。

さて、誰だったか。さっきの席順では、確か見たことはあるが顔は知らない、ここらへんの地域では珍しい名字の男だった気がする。相手に気付かれぬよう、本に没頭している振りをしながら私は、大袈裟な程大きな溜息をもらした隣人の顔を確認した。

…冴えない男だ

少し幼さを残した、あどけなく純な笑顔。スポーツ刈りで眉毛も剃らず、自然体のままという感じ。服のセンスは、私と似ている。睫毛の長い二重の目、奥まで澄んでいる漆黒の瞳は、

……何故か《私の方を》見ていた。

目が合ってしまった。

仕方がない、と目線を外さずに私は軽く首を傾けた。私としては、会釈をしたつもりだったが、何故かその男は、目を笑わせる。

「……」

少し苛立たしく思い、目線を外してまた本に目を向ける。

男は、友達らしき人と座ったまま話をしていた。

それが、あいつと出会った最初の日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2861d/>

3cmの我儘

2010年10月28日06時58分発行